令和元年度

印西市内遺跡発掘調査報告書

木戸場遺跡　（第５地点）
多々羅田遺跡　（第３地点）
アラク山遺跡　（第２地点）

２０２１

印 西 市 教 育 委 員 会

例　言

1．本書は、令和元年度国庫補助を受けて実施した、木戸場遺跡（第５地点）、多々羅田遺跡（第３地点）、アラク山遺跡（第２地点）の発掘調査報告書である。

2．発掘調査は印西市教育委員会が令和元年度に実施し、整理作業と原稿執筆は印西市より委託を受けた公益財団法人印旛郡市文化財センターが実施した。

3．調査組織は、以下のとおりである。

●発掘調査（令和元年度）

調査主体者　大木　弘　　印西市教育委員会教育長

調査事務　　小那木康淳　印西市教育委員会教育部生涯学習課長

　　坂巻　暁子　印西市教育委員会教育部生涯学習課文化係長

調査担当者　野村　優子　印西市教育委員会教育部生涯学習課文化係主査

●整理作業（令和２年度）

調査主体者　大木　弘　　印西市教育委員会教育長

調査事務　　鈴木　圭一　印西市教育委員会教育部生涯学習課長

　　唐澤　千晶　印西市教育委員会教育部生涯学習課文化係長

　　木村　崇史　印西市教育委員会教育部生涯学習課文化係主査

調査受託者　茅野　達也　公益財団法人印旛郡市文化財センター代表理事

整理担当者　小倉　和重　公益財団法人印旛郡市文化財センター庶務課長補佐兼調査係長

4．（１）遺跡の所在地、（２）調査の種別、調査面積、調査期間、（３）調査担当者、（４）調査に至る経緯は、以下のとおりである。

木戸場遺跡（第５地点）（センターコード：09-147）

（１）印西市船尾字平蔵地409-1、409-3　（２）確認調査　上層58.5㎡／499.95㎡　令和元年12月６日　（３）野村優子　（４）個人住宅兼店舗建設工事に先立ち、文化財保護法第93条の届出が提出されたため、埋蔵文化財の取り扱いについての協議を行い、本調査の必要性を判断するために確認調査を行った。

多々羅田遺跡（第３地点）（センターコード：09-148）

（１）印西市多々羅田74-2　（２）確認調査　上層89㎡／702.21㎡　令和元年12月９日　（３）野村優子　（４）個人住宅の建築に先立ち、文化財保護法第93条の届出が提出されたため、埋蔵文化財の取り扱いについての協議を行い、本調査の必要性を判断するために確認調査を行った。

アラク山遺跡（第２地点）（センターコード：09-149）

（１）印西市鹿黒字アラク468-1　（２）確認調査　上層23.8㎡／86.8㎡　令和２年２月26日　（３）野村優子　（４）携帯電話基地局の建設に先立ち、文化財保護法第93条の届出が提出されたため、埋蔵文化財の取り扱いについての協議を行い、本調査の必要性を判断するために確認調査を行った。

5．整理作業、報告書原稿作成並びに印刷製本は、令和２年度国庫補助事業及び県費補助事業として実施した。

6．本書は、小倉が執筆及び編集を行った。

7．本書で使用した写真は、遺構は調査担当者、遺物は杉原豊氏（有限会社スギハラ）が撮影した。

8．調査原図、遺物実測図、写真、出土遺物は、印西市教育委員会が保管している。

9．発掘調査から報告書刊行まで、文化庁、千葉県教育庁教育振興部文化財課よりご指導を賜った。

凡　例

1．第１図は、国土地理院発行の１/25,000「白井」（平成29年７月１日発行）を使用した。
2．第２・４・６図中の太線は、遺跡範囲を表す。
3．挿図中のスクリーントーンは、遺構を示す。
4．トレンチ配置図・写真図版中の略号は、以下のとおりである。
　Ｔ：トレンチ　　住：竪穴住居跡　　土：土坑　　溝：溝状遺構
5．座標は公共座標（世界測地系）を、方位は磁北を示し、標高は東京湾平均海水面を基準とする。
6．トレンチ脇の負数は、現地表面から遺構確認面までの深さ（単位：cm）を表す。
7．遺物法量は、推定値を（単位：cm）、現存値を＜単位：cm ＞で示した。
8．遺構・遺物の縮尺は、図中のスケールを参照されたい。遺物写真の縮尺は、２/３である。

本文目次

第１章　周辺の遺跡……１
第２章　木戸場遺跡（第５地点）……６
　第１節　遺跡の立地……６
　第２節　調査の方法……６
　第３節　検出された遺構と遺物……６
第３章　多々羅田遺跡（第３地点）……７
　第１節　遺跡の立地……７
　第２節　調査の方法……７
　第３節　検出された遺構と遺物……７
第４章　アラク山遺跡（第２地点）……７
　第１節　遺跡の立地……７
　第２節　調査の方法……７
　第３節　検出された遺構と遺物……７
第５章　まとめ……10

挿図目次

第１図　遺跡位置図……３
第２図　木戸場遺跡（第５地点）周辺地形図……６
第３図　木戸場遺跡（第５地点）トレンチ配置図……７
第４図　多々羅田遺跡（第３地点）周辺地形図……８
第５図　多々羅田遺跡（第３地点）トレンチ配置図…８
第６図　アラク山遺跡（第２地点）周辺地形図……９
第７図　アラク山遺跡（第２地点）トレンチ配置図…９
第８図　アラク山遺跡（第２地点）遺物実測図……10
第９図　類例集成図……14

表　目　次

第１表　遺跡一覧表……５
第２表　アラク山遺跡（第２地点）遺物観察表……10

写真図版目次

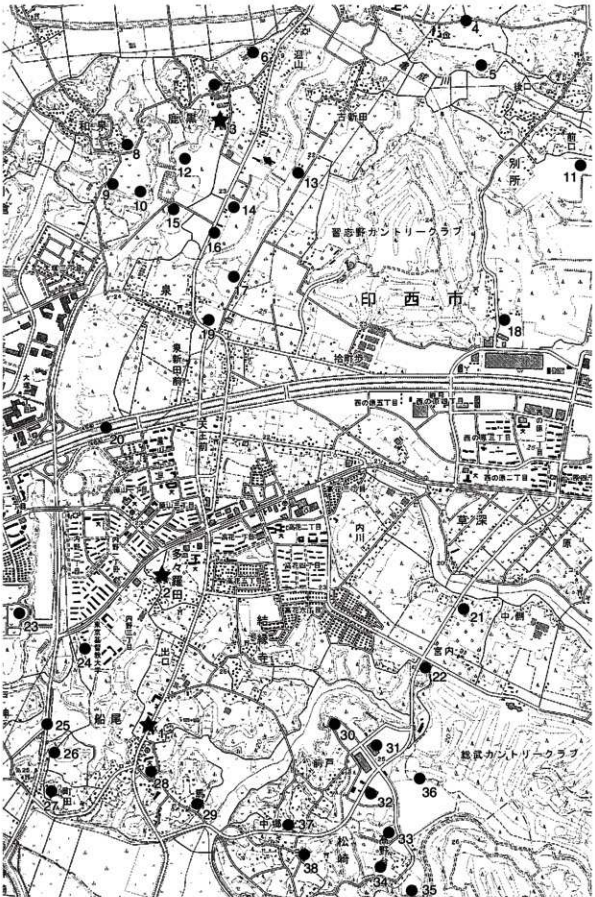
図版１　木戸場遺跡（第５地点）調査前風景、１～８Ｔ全景
図版２　木戸場遺跡（第５地点）９・10Ｔ全景、多々羅田遺跡（第３地点）調査前風景、１～４Ｔ全景
図版３　多々羅田遺跡（第３地点）５Ｔ全景、アラク山遺跡（第２地点）調査前風景、１・２Ｔ全景、アラク山遺跡（第２地点）出土遺物

第１章　周辺の遺跡

本書で報告する**木戸場遺跡**（１）、**多々羅田遺跡**（２）、**アラク山遺跡**（３）は、印西市の西部に位置している。本章では、発掘調査によりある程度内容を捉えることができる周辺の遺跡について概要を述べる（第１図）。その他の遺跡については、『千葉県埋蔵文化財分布地図（１）―東葛飾・印旛地区（改訂版）―』（千葉県教育委員会，1997）の記載内容を第１表にまとめたので参照されたい。

天神台遺跡（４）は、古代印播郡言美郷の拠点集落とみなされているが、縄文時代中期と弥生時代後期の集落も展開する。また、遺跡の北側には縄文時代後期の地点貝塚が存在する。**木下別所廃寺跡**（５）は、７世紀後半の創建とされている。発掘調査により、塔・金堂・講堂と想定されている基壇が３基検出されている。出土した瓦は奈良県桜井市の山田寺と同范型であることから、中央の豪族とのつながりを示している。**迎山遺跡**（６）は、これまで行われた２度の発掘調査（確認調査）から、古墳時代前期から中期の大規模な集落と想定されており、古墳時代初頭の東海地方の影響を受けた土師器が出土しているほか、弥生時代中期の宮ノ台式土器も出土している。**鹿黒堀込遺跡**（７）では、古墳時代前期の住居跡が検出されている。**東畑遺跡**（８）では、縄文時代の竪穴住居跡や土坑のほか、中・近世の土坑や溝状遺構が検出されている。**前原西遺跡（泉北第２遺跡）**（９）では、縄文時代後期中葉以前の竪穴状遺構と古墳時代前期以前の溝状（道路状）遺構が検出されており、道路状遺構については東側に近接する新山北（泉北側第２）遺跡に展開する古墳時代前期の集落との関係性が注意されている。**宗甫北遺跡**（11）では、時期不明の小竪穴１基と縄文時代前期（関山式期）の屋外炉と考えられる焼土が１基検出されている。小竪穴については付近から縄文時代早期の土器（夏島式）が出土しているが、当該遺構から遺物は出土していない。**新山北遺跡（泉北側第２遺跡）**（12）は、古墳時代前期の集落が展開し、北陸系の土器が出土している。縄文時代早期後葉の炉穴、前期（関山式期）、後期初頭（称名寺式期）と同前葉（堀之内式期）、晩期（千網式期）、時期不明の竪穴住居跡が検出され、石鏃製作にかかわるとみられる楔形石器が多く出土している。関山式期の竪穴住居跡からは、ハマグリを主体とする貝層が検出されている。同遺跡（Ⅱ）では、縄文時代早期の炉穴群、中期後半と古墳時代前期の竪穴住居跡、奈良・平安時代の土坑等が検出されている。**古新田南遺跡**（13）では、縄文時代早期後葉の炉穴が検出されているほか、縄文時代の石鏃製作跡が検出されている。**割野遺跡**（14）では、縄文時代早期沈線文系土器に伴うとみられる礫群、中期中葉（阿玉台式期）とみられる石鏃製作跡が検出されている。**泉北側第３遺跡**（15）では、古墳時代前期の集落が展開するほか、縄文時代早期と推測される焼土跡等が検出されている。**泉新田野馬堀**（16）と**新井堀Ⅰ遺跡・新井堀Ⅰ野馬土手**（21）では、印西牧にかかわる堀や溝を伴う野馬土手が検出されている。**大割水溜遺跡**（17）では、縄文時代早期後葉の炉穴のほか、泉北側第２遺跡の分村と考えられている古墳時代前期の竪穴住居跡が２軒検出されている。**別所新田第２遺跡**（18）は、別所新田遺跡の南西に隣接することから同一遺跡として括られている。縄文時代の陥穴と土坑が検出されているが、時期は不明である。**南西ヶ作遺跡**（20）は、奈良・平安時代の集落であるが、縄文時代早期後葉の炉穴群も検出されている。奈良・平安時代の遺物で注目されるのは、「佛」墨書土器のほか、人名が記入されていたと推測される「大國玉神（代）［　　］召（呂）長［　　］」の長文墨書土器、下総国分寺系の瓦、蓮華墨画土器、カマド内出土の鹿骨がある。**鳴神山遺跡**（23）では、西側に隣接する白井谷奥遺跡に続く古代の道路跡が検出されている。この道路跡は、出土遺物から８世紀中頃以降に造られた古代埴穂郷の主要道の一つと考えられている。注目すべき遺物として、仏鉢（「佛」の墨書あり）などの仏具や「播寺」・「波田寺」の墨書土器がある。**船尾白幡遺跡**（24）は、谷を挟んで西側に近接する鳴神山遺跡と白井谷奥遺跡とともに平安時代中頃に編纂された『和名類聚抄』にある下総国印播郡埴穂郷の中心的な集落と考えられている。と

くに、定形的な配列をなす掘立柱建物跡群は、郷の管理施設の可能性が指摘されている。これまでの調査で同時代の竪穴住居跡74棟、掘立柱建物跡36棟が検出され、鉄製の鉄鏃や青銅製の鈴帯金具、墨書土器が1,200点近く出土している。また、他の時代について見ると、縄文時代早期から後期の竪穴住居跡や竪穴状遺構、土坑、陥穴、炉穴、ピット群が検出されている。弥生時代以降は弥生時代後期の集落と古墳時代後期の集落が小規模ながら展開する。古墳時代後期の竪穴住居跡のカマドからは、シオフキを主体とする貝が焼けた状態で出土している。**西根遺跡（25）**は、縄文時代から中・近世にわたる遺物が出土した流路跡のほか、古墳時代前期の堰跡が検出されている。遺物は縄文時代後期中葉の大量の土器や飾り弓のほか、古墳時代の木製農具や船の部材、石製模造品、奈良・平安時代の木製農具や形代、墨書土器等が出土している。**船尾町田遺跡（26）**では、古墳時代前期を中心に弥生時代終末期から古墳時代中期までの集落が展開している。出土した土師器の中には、尾張・伊勢地域のものがある。また、古墳時代後期の古墳が3基調査されている。1号墳は径19ｍの円墳で、主体部は箱式石棺である。主体部から、長三角形式の鉄鏃、鉄製品の一部、人骨の一部が出土している。2号墳は7世紀中葉以降の築造と考えられる終末期の前方後円墳で、全長30ｍ、主体部は箱式石棺である。主体部から、水晶製切子玉、碧玉製管玉が、周溝内から直刀、金銅製鈴がそれぞれ出土している。3号墳は径26ｍの円墳で、主体部は箱式石棺である。主体部から、水晶製切子玉、ガラス製玉・小玉、石製玉が出土している。**向ノ地遺跡（27）**では、古墳時代前期の集落を中心に、弥生時代後期の集落も展開する。とくに、弥生時代の環濠とみられる断面逆台形の溝が注目されるが、正式な報告書は未刊行である。なお、向ノ池遺跡と船尾町田遺跡は約300ｍ離れて隣接する位置関係にあり、弥生時代後期から古墳時代前期にかけては同一の集落が展開すると考えられている。**油免遺跡（28）**第2地点では、古墳時代中期から後期、奈良・平安時代の集落が展開しているほか、縄文時代中期の土坑や中世の土坑・溝が検出されている。また、遺構は確認されていないものの、弥生時代後期と古墳時代前期の土器が出土している。注目される遺物として、古墳時代の住居跡から出土した石製模造品（剣形）と同製作関連遺物（滑石剥片）のほか、奈良・平安時代の住居跡から出土した長頸壺や伊勢産の刷毛目甕、畿内産土師器がある。また、奈良時代の竪穴住居跡の床面から、ハマグリとシオフキを主体とする貝が出土している。同遺跡第3地点では、9世紀中頃の土師器とともに鉄製小刀が出土した土坑が1基検出されている。**松崎Ⅰ遺跡（30）**は、縄文時代早期後半、茅山下層式を中心とする炉穴群のほか、弥生時代末から古墳時代前期の集落と方形周溝墓（方墳）が展開する。なお、墓域は集落が廃絶した後に形成されている。**松崎Ⅱ遺跡（31）**は、弥生時代末から古墳時代前期を中心とする集落であるが、縄文時代の土坑や奈良・平安時代の方形周溝状遺構等が検出されている。とくに、古墳時代初期の鍛冶工房の可能性が高い鍛冶関連遺構や奈良・平安時代の土坑から老齢の馬骨と鉄斧の共伴、複数の住居跡にみられる土器の集中廃棄が注目される。**松崎Ⅲ遺跡（32）**は、縄文時代早期前葉と後葉、中期後葉の竪穴住居跡、早期後葉の炉穴のほか、時期不明の円墳1基、奈良・平安時代の竪穴住居跡や蔵骨器埋納土坑1基、中世の居館跡等が検出されている。**松崎Ⅳ遺跡（33）**は、弥生時代後期の集落が展開する。**松崎Ⅴ遺跡（34）**は、縄文時代早期後葉の炉穴群、古墳時代前期、奈良・平安時代の住居跡が検出されている。**松崎Ⅵ遺跡（35）**では、奈良・平安時代の集落が主体であるが、縄文時代中期の竪穴状遺構と時期不明の土坑（陥穴）、中世の地下式坑などが検出されている。**松崎Ⅶ遺跡（36）**は、縄文時代中期末の土坑が少数検出されている。なお、松崎Ⅰ～Ⅴ遺跡では、古墳時代後期の集落は確認されていない。**前戸遺跡（37）**は、古墳時代終末から奈良・平安時代の集落が展開する。2004（平成16）年の調査で、縄文時代の陥穴、奈良時代の竪穴住居跡と溝状遺構等が検出されており、唯一検出された8世紀後半の竪穴住居跡のカマド内からは、新治産の須恵器坏が2分割された状態で出土している。また、注目される遺物と


印西市
翠香野カントリークラブ
鹿島カントリークラブ
古新田
別所
和泉
泉新田前
内川
宮内
中嶋
船尾
松崎
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38

第１図　遺跡位置図

して、瓦塔片が出土している。**東海道遺跡（38）**では、縄文時代中期の竪穴住居跡や土坑も少数検出されている。なお、前戸遺跡と東海道遺跡は隣接する位置関係にあることから、ともに古墳時代後期から平安時代を中心とする同一集落であると考えられ、古墳時代にあっては船尾町田古墳群（船尾町田遺跡）の造営にかかわった集落であるとも考えられている。

第1表　遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代（時期）	遺構・遺物（土器様式・型式）
1	**木戸場遺跡**	縄文、古墳（後）、奈良、平安、近世	住居跡、土坑、掘立柱建物跡、溝、柵列、縄文土器、土師器、須恵器、陶磁器、鉄製品、粘土塊
2	**多々羅田遺跡**	縄文（前・中）、奈良、平安、中世	縄文土器（浮島、下小野、加曽利E）、土師器、黒曜石、陶磁器、古銭、鉄滓
3	**アラク山遺跡**	縄文（後a）、奈良、平安	縄文土器（後期a）、土師器
4	天神台遺跡	縄文（早・中・後）、弥生（後）、古墳、奈良、平安	地点貝塚、住居跡、縄文土器（沈線文系・加曽利E・称名寺・堀之内・加曽利B・安行・大洞）、弥生土器、土師器、須恵器、鉄器、銅製品、土錘
5	本下別所廃寺跡	飛鳥、奈良、平安	古瓦、基壇
6	逊山遺跡	縄文、弥生（中・後）、古墳（前）	住居跡、土坑、縄文土器（沈線文系・条痕文系・花積下層・諸磯・浮島・北白川下層・前期末～中期初頭・阿玉台・加曽利E・称名寺・堀之内）、弥生土器（宮ノ台）、土師器、須恵器
7	鹿黒堀込遺跡	縄文、古墳（前）	住居跡、縄文土器、土師器
8	東畑遺跡	縄文（中・後・晩期）、中世、近世	縄文土器（阿玉台・加曽利E・称名寺・堀之内・加曽利B・曽谷・安行Ⅰ～Ⅲa・大洞A）、土師器
9	前原西遺跡（泉北第2遺跡）	縄文（早・後）、古墳（前）	縄文土器（条痕文系・加曽利B・安行Ⅰ・Ⅱ）
10	前原東遺跡（泉北第1遺跡）	縄文（後）	陥穴、縄文土器（堀之内・加曽利B・安行Ⅱ）
11	宗甫北遺跡	縄文（早・前・中）	屋外炉（後土）、縄文土器（撚糸文系・関山・黒浜・加曽利E）
12	新山北遺跡（泉北側第2遺跡）	旧石器、縄文（早・前・中・後・晩）、弥生（後）、古墳（前）	礫石器、住居跡、縄文土器（沈線文系・条痕文系・関山・黒浜・諸磯・浮島・興津・前期末～中期初頭・称名寺・堀之内・安行・千網）、弥生土器（後期）、土師器、石製玉類
13	古新田南遺跡	旧石器、縄文	石器ブロック、炉穴、石鏃製作跡、縄文土器（撚糸文系・条痕文系・浮島・諸磯・吉和田台・十三菩提・阿玉台・勝坂・加曽利E・称名寺・堀之内・加曽利B）
14	大森剣野遺跡（剣野遺跡）	旧石器、縄文（早・前・中・後・晩）	陥穴、土坑、礫群（沈線文系）、石器製作跡（阿玉台）、縄文土器（撚糸文系・沈線文系・条痕文系・関山・黒浜・諸磯・浮島・五領ヶ台・下小野・阿玉台・加曽利E・称名寺・加曽利B・安行・千網）
15	新山南遺跡（泉北側第3遺跡）	縄文	縄文土器、土師器
16	泉新田野馬堀遺跡	近世	土手、堀
17	水溜遺跡	縄文	縄文土器、土師器
18	別所新田遺跡（別所新田第2遺跡）	縄文（早・前・中）	陥穴、土坑、縄文土器（撚糸文系・黒浜・諸磯・浮島・前期末～中期初頭・加曽利E）
19	東泉新田南遺跡	旧石器、縄文（早・後）、中世、近世	土坑、溝、旧石器、縄文土器（撚糸文系、条痕文系、加曽利B）、土師器、陶磁器、土製品（泥面子）、古銭
20	南西ヶ作遺跡	旧石器、縄文（早・中・後・晩）	ナイフ形石器、縄文土器（撚糸文系・条痕文系・加曽利E・加曽利B・縄山Ⅱ）
21	新井堀Ⅰ遺跡	奈良、平安、近世	野焼土手
22	新井堀Ⅱ遺跡	縄文（早・前・中）、奈良、平安、中世、近世	炉穴、炉跡、陥穴、溝、道路跡、土坑、縄文土器（撚糸文系・沈線文系・条痕文系・黒浜・諸磯・浮島・前期末～中期初頭・阿玉台・加曽利E・堀之内）
23	鳴神山遺跡	旧石器、奈良、平安、中世、近世	住居跡、土壙墓、掘立柱建物跡、土師器、須恵器、陶器（灰釉・緑釉）
24	船尾白鳥遺跡	旧石器、縄文（早・前・中・後）、弥生（後）、古墳（後）、平安	住居跡、炉穴、陥穴、土坑、礫石器、ナイフ形石器、縄文土器（撚糸文系・沈線文系・条痕文系・関山・浮島・興津・五領ヶ台・前期末～中期初頭・阿玉台・加曽利E・称名寺・堀之内・加曽利B）、弥生土器（弥生町）、土師器
25	西根遺跡	縄文（後）	縄文土器（加曽利B・安行）
26	船尾町遺跡	縄文（早・前・中・後）、弥生（後）、古墳（前・後）	住居跡、前方後円墳、円墳、縄文土器（撚糸文系・条痕文系・諸磯・浮島・勝坂・中峠・加曽利E・称名寺・加曽利B・安行）、弥生土器（前野町）、土師器
27	向ノ地遺跡	弥生（後）、古墳（前）、奈良、平安、中・近世	住居跡、土坑、溝、旧石器、弥生土器、土師器、陶磁器、鉄製品、古銭
28	油免遺跡	弥生（後）、古墳（前・中・後）、奈良、平安	住居跡、土師器、須恵器、長頸壺G、畿内産土師器、石製模造品、鉄製紡錘車、刀子
29	船尾貝塚	縄文（早）	縄文土器（茅山）
30	松崎Ⅰ遺跡	旧石器、縄文、弥生、古墳、奈良、平安、中世、近世	石器集中地点、住居跡、炉穴、土坑、方墳、掘立柱建物跡、地下式坑、溝、弥生土器、土師器
31	松崎Ⅱ遺跡	旧石器、縄文（早・中・後）、古墳（前）	旧石器集中地点、住居跡、土坑、陥穴、土壙墓、製鉄関連土坑、掘立柱建物跡、溝、地下式坑、野焼土手、旧石器、縄文土器（撚糸文系・沈線文系・条痕文系・五領ヶ台・阿玉台・加曽利E・称名寺・堀之内・加曽利B）、土師器、鉄滓
32	松崎Ⅲ遺跡	旧石器、縄文、中世	旧石器、縄文土器
33	松崎Ⅳ遺跡	旧石器、縄文（早・前・中・後）、弥生（後）、平安、中世、近世	陥穴、土坑、ピット、住居跡、溝、縄文土器（撚糸文系・前期繊維土器・阿玉台・加曽利E・堀之内・加曽利B）、土師器、陶磁器、古銭
34	松崎Ⅴ遺跡	旧石器、縄文、古墳（前）、奈良、平安、中世	炉穴、陥穴、住居跡、土坑、溝、縄文土器（撚糸文系・条痕文系・黒浜・浮島・諸磯・五領ヶ台・加曽利E・称名寺・堀之内・加曽利B）、陶磁器
35	松崎Ⅵ遺跡	旧石器、縄文（早・前・中・後）、奈良、平安、中世、近世	石器集中地点、土器溜合層、炉穴、炉穴状遺構、土坑（陥穴）、旧石器、縄文土器（撚糸文系・条痕文系・沈線文系・阿玉台・勝坂・加曽利E・堀之内・加曽利B）、土師器、須恵器、陶器
36	松崎Ⅶ遺跡	旧石器、縄文（中）、平安	土坑、石器、縄文土器（阿玉台・加曽利E）
37	前戸遺跡	縄文（中）、古墳、奈良、平安、中世、近世	住居跡、掘立柱建物跡、溝、縄文土器（加曽利E）、土師器、須恵器、石製紡錘車、内耳鍋、灯明皿
38	東海道遺跡	縄文（中・後）、古墳、奈良、平安、中世、近世	住居跡、土坑、掘立柱建物跡、溝、縄文土器（加曽利E・堀之内）、土師器、須恵器

＊分布地図と発掘調査報告書と で遺跡の時代や出土遺物の内容（土器型式等）が異なる場合は両者の内容を併記した。遺物の項目に「土師器」とあっても、時代が不明な場合は時代名を記載していない。遺物のうち、石器の記載は省略した。遺構名及び土器型式名は分布地図及び報告書に従ったが、縄文時代早期の土器型式名は、「撚糸文系」・「沈線文系」・「条痕文系」と大仲（土器様式）で示した。

第２章　木戸場遺跡（第５地点）

第１節　遺跡の立地（第２図）

西印旛沼に注ぐ新川の北岸1.1km、標高25ｍの台地上に立地する。遺跡の東西には、新川から樹枝状に谷が入り込んでおり、遺跡は西側の戸神川から入り込む支谷に面した台地縁辺に位置している。本地点は、遺跡の東端にあたる。

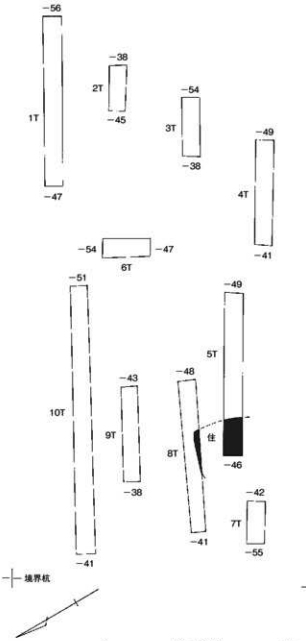
第２節　調査の方法（第３図）

トレンチを任意に10本設定した。最初に、重機によって表土を除去し、遺構確認作業を行った。その後、トレンチの全景写真及び遺構の検出状況写真を撮影し、敷地境界杭を基準に平板測量によりトレンチ配置図（縮尺１/100）を作成した。

第３節　検出された遺構と出土遺物（第３図）

５Ｔと８Ｔにまたがって、奈良・平安時代の竪穴住居跡１軒が検出された。出土した遺物は、１Ｔから時期不明の土師器片２点、須恵器甕の底部付近の破片１点、10Ｔから時期不明の土師器片１点、内外面赤彩の土師器片１点と表面採集の土師器片13点であるが、いずれも小破片であるため、図示し得る遺物はない。

第２図　木戸場遺跡（第５地点）周辺地形図



第３図　木戸場遺跡（第５地点）トレンチ配置図

第３章　多々羅田遺跡（第３地点）

第１節　遺跡の立地（第４図）

新川に注ぐ戸神川の東岸0.75km、戸神川に面した標高約23ｍの台地上に立地する。本地点は、遺跡範囲の南側にあたる。

第２節　調査の方法（第５図）

トレンチを任意に５本設定した。最初に、重機によって表土を除去し、遺構確認作業を行った。その後、トレンチの全景写真及び遺構の検出状況写真を撮影し、敷地境界杭を基準に平板測量によりトレンチ配置図（縮尺１/100）を作成した。

第３節　検出された遺構と出土遺物（第５図）

中世の溝状遺構２条と土坑１基を検出した。溝はいずれも東西方向に走っており、北側の溝は４Ｔで幅1.7ｍ、南側の溝は２Ｔで幅0.5ｍを測る。土坑は一辺が約１ｍの方形を呈する。

出土した遺物は、１Ｔから近世磁器１点、近現代陶器１点、１Ｔ内の１号土坑から時期不明の土師器片１点、４Ｔから時期不明の土師器片２点であるが、いずれも小破片であるため、図示し得る遺物はない。

第４章　アラク山遺跡（第２地点）

第１節　遺跡の立地（第６図）

利根川に合流する手賀川に注ぐ亀成川南岸、標高23ｍの台地上に立地する。遺跡の北側と西側には亀成川から小さな支谷が樹枝状に伸びており、遺跡はそれらの谷に挟まれるような位置にある。本地点は遺跡範囲の南西部にあたり、西側から入り込む谷に面している。

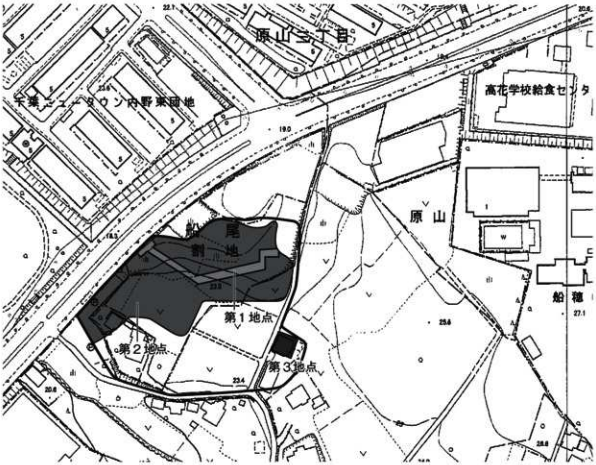
第２節　調査の方法（第７図）

トレンチを任意に２本設定した。最初に、重機によって表土を除去し、遺構確認作業を行った。遺構確認面までの深さを計測し、図面作成及び写真撮影を行った。平面図は、調査区内に平板測量のための基準点を任意に設定し、縮尺１/40で作成した。

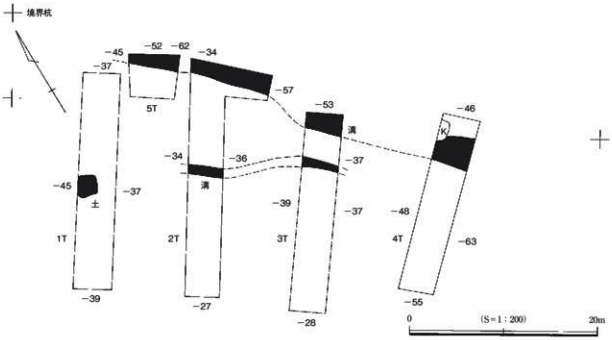
第３節　検出された遺構と出土遺物（第７・８図、第２表）

古墳時代前期とみられる竪穴住居跡を１軒検出した。平面規模は一辺5.8ｍを測る。

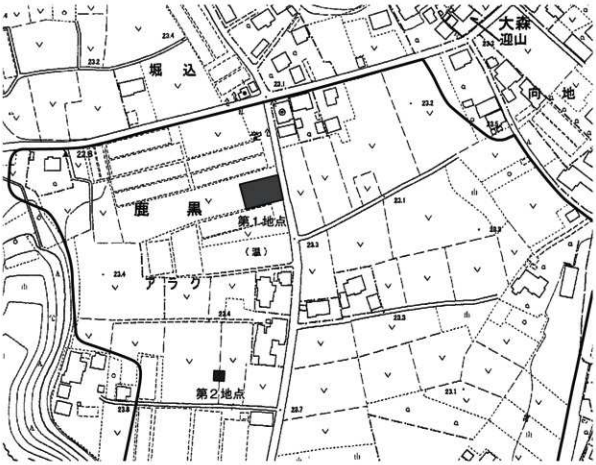
出土した遺物は図示した遺物のほかに、縄文時代後期後葉とみられる深鉢の小片３点、古墳時代前期の土師器片１点、時期不明の土師器片12点、近世陶器１点が出土した。



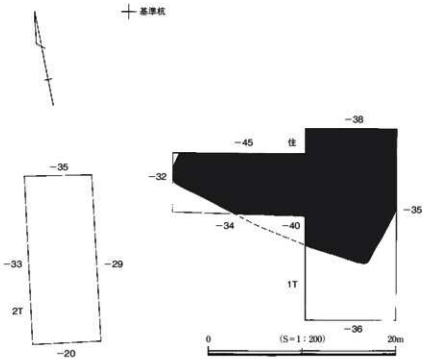
第4図　多々羅田遺跡（第3地点）周辺地形図



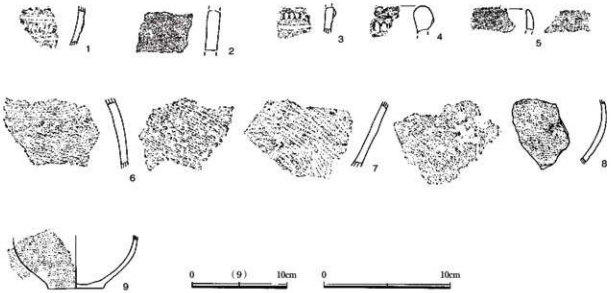
第5図　多々羅田遺跡（第3地点）トレンチ配置図



第６図　アラク山遺跡（第２地点）周辺地形図



第７図　アラク山遺跡（第２地点）トレンチ配置図



第８図　アラク山遺跡（第２地点）遺物実測図

第２表　アラク山遺跡（第２地点）遺物観察表

挿図番号	出土位置	種別・器種	部位	遺存度	法量	調整・文様等	備考
第８図１	１Ｔ	縄文土器深鉢	胴部	破片	—	隆帯上にキザミ。横位条線文。	後期（安行２式）
第８図２	１Ｔ	縄文土器深鉢	胴部	破片	—	無文。縦位ミガキ。	後期（加曽利Ｂ式ｏ）
第８図３	１Ｔ	縄文土器深鉢	胴部	破片	—	隆帯上にキザミ。横位条線文。	キザミは１より太く深い。後期（安行２式）
第８図４	１Ｔ	縄文土器深鉢	口縁部	破片	—	隆帯上にキザミ。	キザミの形状は３に近似。後期（安行２式）
第８図５	１Ｔ	土師器甕	口縁部	破片	—	外面斜位ハケ目。内面横位ハケ目。	
第８図６	１Ｔ	土師器壺	胴部	破片	—	内外面斜位ハケ目。外面櫛状平行沈線文間に櫛描波状文と櫛状工具による突刺文。	内面の器壁剥落顕著。
第８図７	１Ｔ	土師器甕	胴部	破片	—	外面斜位ハケ目。	内面は茎状植物により上半分を横位。下半分を斜位ナデ。内面の器壁剥落。
第８図８	１Ｔ	土師器甕	胴部	破片	—	外面斜位ハケ目。	外面の上半分を中心に煤付着。内面斑状に器壁剥落。
第８図９	１Ｔ	土師器甕	胴～底部	１/５	器高（22）cm 底径（9.4）cm	外面斜位ハケ目。	外面の略２/３上部に煤付着。

第５章　まとめ

木戸場遺跡（第５地点）は、過去４度の発掘調査が遺跡の南端に近い地点であったのに対し、今回の調査地点は東端部であった。調査の結果、奈良・平安時代の竪穴住居跡が１軒確認されたが、これは第１～３地点の同時代の遺構の広がりを追認するものである。なお、第４地点では古墳時代後期と想定される住居跡が２軒確認されている。また、県道を挟んで東側には直線距離で200ｍも離れていない位置に土師器の散布が確認されている坊山遺跡があり、両遺跡の関係も注意されよう。

多々羅田遺跡（第３地点）は、過去２回の発掘調査は、遺跡の中心から西側の広い範囲で行われているが、遺構の密度は低い。今回の調査地点は、遺跡範囲の南東端に近い位置であり、確認された遺構は中世の溝２条と土坑１基という希薄な内容であった。遺構の時期や出土遺物は、第１地点と第２地点での内容を追認するものである。今後、遺跡範囲の南側や東側の調査が進めば、遺跡の内容もある程度詳らかになるものと考える。

アラク山遺跡（第２地点）は、平成27年に本地点の100ｍ北側を第１地点として発掘調査している。第１地点では、縄文土器（後期）のほか奈良・平安時代の土師器が出土していることから、複数の時代にわたる複合遺跡であることが判明していたが、今回の調査では古墳時代初頭の土師器が初めて確認されたことは大きな成果である。本遺跡の北東約300ｍに位置する迎山遺跡でも同時期の竪穴住居跡が確認されていることから、両遺跡の関係が注目される。

ここで、第８図６に掲げた古墳時代初頭の有段口縁壺について周辺の類例と比較しておきたい。本資料は、器面を刷毛状工具で整形した後、櫛歯状工具を用いた平行沈線文・波状文・突刺文を組み合わせた特徴的な文様を展開しているが、まず全体の文様構成、文様の描出方法等について確認しておく。櫛描波状沈線を挟む上下の平行沈線のうち、上位の平行沈線は４条で、上２条の間隔が広く、下２条の間隔が狭い。下位の平行沈線は幅が上位の下２条よりもわずかに狭いことから、別の工具による施文である可能性が高い。突刺文は平行沈線文の後に施文されており、左傾する突刺文とその下位にほぼ横位に近いがやや右傾気味に施された突刺文が羽状を呈するように施されている。また、拓図下端、下位の平行沈線文下にも左傾する突刺文が確認できる。波状文は突刺文の後に施文されており、４条一組の平行沈線が等間隔に重複することなく同じ深さで施文されていることから、半截竹管状工具を２本束ねたもの、あるいは櫛歯状工具を用いている可能性が高い。胎土は緻密で精選されており、焼成は良好である。

ここで、県内における類例（第９図）と比較しながら、本資料の編年的位置付けを考えてみたい。櫛描の平行沈線文と波状文、あるいはどちらかの文様を文様構成にもつ有段口縁壺は草刈Ⅰ期からⅡ期（加藤，2000）に認められ、神門５号墳（同図１-１・１-２：Ⅰ期前半）、西ノ入２号墳（同図２：Ⅰ期併行）、大崎台遺跡第９号方形周溝墓（同図３：Ⅰ期併行）、星久喜第２号方形周溝墓（同図４：Ⅰ期併行）、長平台288号墳（同図５・６：Ⅰ期前半）、臼井南遺跡渡戸Ｂ地区第１号住居址（同図７：Ⅱ期前半）・第Ⅰ周溝墓（同図８・９：同）がある。このほか、Ⅰ期後半からⅡ期への過渡期とみられる泉北側第２遺跡021号住居跡（同図10）がある。この中で、本資料と同様の突刺文が施文されているのは渡戸Ｂ遺跡第１号住居址例のみである。その他、縄文（Ｓ字状結節文）や貝殻腹縁文、円形刺突文、絡条体圧痕による列点文など、多様な文様の組み合わせが認められるが、それぞれ弥生時代後期の在地系の文様要素を継承、置換したものと考えられる。これらの類例と本資料を比較すると、本資料は櫛描平行沈線文の条数が少なく条間も広い。

よって、本資料の編年的位置付けは、小破片であるため全体の文様構成や器形、共伴する器種は不明であるが、Ⅰ期後半からⅡ期への過渡期と捉えておきたい。

参考文献

阿部有花　2004『油免遺跡（第２地点）』（財）印旛郡市文化財センター

石川愛恵　2019『平成29年度印西市内遺跡発掘調査報告書』（公財）印旛郡市文化財センター

伊藤弘一　2005『前戸遺跡』（財）印旛郡市文化財センター

糸川道行　2004『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書Ⅹⅵ―印西市船尾白幡遺跡―』（財）千葉県文化財センター

今泉　潔　2002『新井堀Ⅰ遺跡・新井堀Ⅰ野馬土手』（財）千葉県文化財センター

印西市教育委員会　2011『印西市歴史読本　原始・古代編』

印旛郡市文化財センター　1993『印西町向ノ地遺跡』『年報９―平成４年度―』

印旛郡市文化財センター　1994『印西町向ノ地遺跡』『年報10―平成５年度―』

印旛郡市文化財センター　1997『鹿黒堀込遺跡』『年報12―平成７年度―』

内田龍哉　2004『松崎地区内陸工業用地造成整備事業埋蔵文化財調査報告書２―印西市松崎Ⅰ遺跡―』（財）千葉県文化財センター

内田龍哉　2004『印西市新井堀Ⅱ遺跡・前戸遺跡』（財）千葉県文化財センター

大内千年　2006『松崎地区内陸工業用地造成整備事業埋蔵文化財調査報告書５―印西市松崎Ⅳ遺跡・松崎Ⅴ遺跡―』（財）千葉県文化財センター

大澤　孝　2006『千葉県印西市東畑遺跡』（財）印旛郡市文化財センター

小笠原永隆　2004『松崎地区内陸工業用地造成整備事業埋蔵文化財調査報告書３―印西市松崎Ⅵ遺跡・松崎Ⅶ遺跡―』（財）千葉県文化財センター

岡田誠造　2005『印西市鳴神山遺跡Ⅳ』（財）千葉県文化財センター

岡田誠造　2006『松崎地区内陸工業用地造成整備事業埋蔵文化財調査報告書４―印西市松崎Ⅲ遺跡―』（財）千葉県文化財センター

小倉和重　2020『平成30年度印西市内遺跡発掘調査報告書』（公財）印旛郡市文化財センター

落合章雄　1999『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書ⅩⅢ―別所新田第２遺跡―』（財）千葉県文化財センター

加藤修司　2000『土器編年案』『研究紀要21』（財）千葉県文化財センター

香取正彦　2005『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書ⅩⅦ―船尾白幡遺跡Ⅱ』（財）千葉県文化財センター

香取正彦　2007『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書ⅩⅨ―印西市古新田南遺跡―』（財）千葉県文化財センター

香取正彦　2008『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書ⅩⅩ―印西市南西ヶ作遺跡・本埜村式卜込遺跡―』（財）千葉県文化財センター

黒沢　崇　2014『印西市東海道遺跡』（公財）千葉県文化財センター

小橋健司　2006『市原市長平台遺跡』（財）市原市文化財センター

小林信一　2005『印西市西根遺跡』（財）千葉県文化財センター

小牧美知枝　2017『平成27年度印西市内遺跡発掘調査報告書』印西市教育委員会

齊藤　毅　2015『平成25年度印西市内遺跡発掘調査報告書』印西市教育委員会

鈴木圭一　2006『平成17年度印西市内遺跡発掘調査報告書』印西市教育委員会

鈴木道之助　1974『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書Ⅲ―別所大山遺跡―』（財）千葉県文化財センター

清藤一順　1984『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書Ⅷ―船尾町田遺跡―』（財）千葉県文化財センター

高橋博文　1991『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書Ⅹ―泉北餅第２遺跡―』（財）千葉県文化財センター

高橋博文　2010『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書ⅩⅩⅡ―印西市泉北餅第１遺跡・大森割野遺跡―』（財）千葉県文化財センター

滝口　宏　1961『印旛・手賀』早稲田大学考古学研究室

中山俊之　2016『平成26年度印西市内遺跡発掘調査報告書』印西市教育委員会

鳴田浩司　1999『千葉北部地区新市街地造成整備事業関連埋蔵文化財調査報告書Ⅱ―印西市鳴神山遺跡・白井谷奥遺跡―』（財）千葉県文化財センター

西川博孝　2013『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書ⅩⅩⅧ―印西市泉北餅第３遺跡（上層）―』（公財）千葉県文化財センター

西野雅人　2003『松崎地区内陸工業用地造成整備事業埋蔵文化財調査報告書―松崎Ⅱ遺跡―』（財）千葉県文化財センター

西山太郎　1987『天神台遺跡発掘調査報告書』（財）印旛郡市文化財センター

野村幸希　1976『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書Ⅴ―船尾白幡遺跡―』（財）千葉県文化財センター

日暮冬樹　2014『平成17～24年度印西市内遺跡発掘調査報告書』印西市教育委員会

古内　茂　2007『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書ⅩⅨ―印西市古新田南遺跡―』（財）千葉県文化財センター

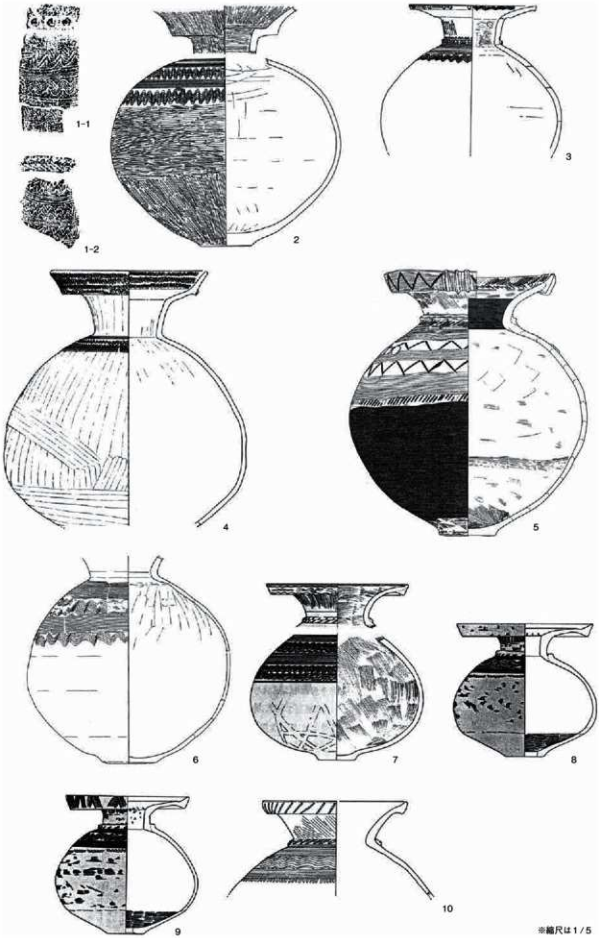
谷旅栄一　2004『泉新田野馬堀』（財）千葉県文化財センター

山岡磨由子　2014『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書ⅩⅩⅩ―印西市大割水溜遺跡・船尾白幡遺跡Ⅱ―（２）』（公財）千葉県文化財センター

矢本節朗　2004『主要地方道千葉竜ヶ崎線埋蔵文化財調査報告書』（財）千葉県文化財センター

米倉貴之　2013『前原西遺跡』（公財）印旛郡市文化財センター
米田幸雄　1991『天神台・ヤジダ遺跡発掘調査報告書』（財）印旛郡市文化財センター

※千葉ニュータウン関連の発掘調査報告書は、本文で扱った遺跡のみを副題に記した。
※編著者名は，編集者のみとした。



第9図　類例集成図

写真図版

木戸場遺跡（第５地点）調査前風景（西から）

２Ｔ全景（東から）

１Ｔ全景（西から）

３Ｔ全景（東から）

４Ｔ全景（東から）

５Ｔ全景（東から）

７Ｔ全景（東から）

８Ｔ全景（西から）

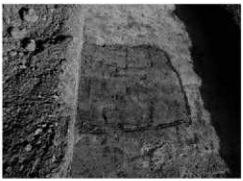
６Ｔ全景（北から）

図版2

木戸場遺跡（第５地点）
９Ｔ全景（東から）

10Ｔ全景（東から）

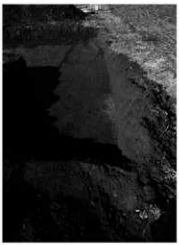
多々羅田遺跡（第３地点）
調査前風景（南から）



１Ｔ土坑検出状況（南から）

１Ｔ全景（南から）

２Ｔ全景（北から）



２Ｔ拡張部（東から）

３Ｔ全景（南から）

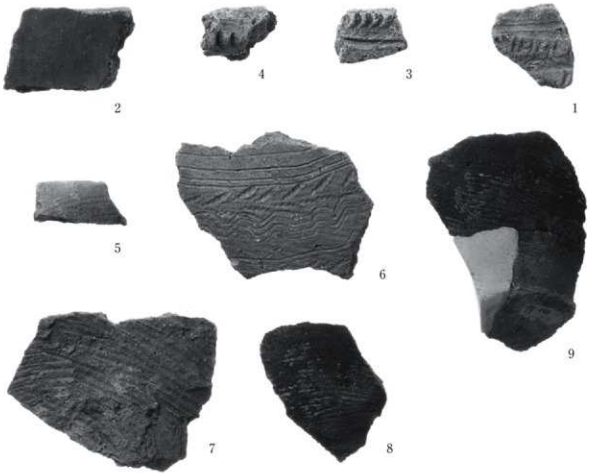
４Ｔ全景（北から）

多々羅田遺跡（第３地点）
５Ｔ全景（北から）

アラク山遺跡（第２地点）
調査前風景（南から）

１Ｔ全景（北から）

２Ｔ全景（南から）



アラク山遺跡（第２地点）出土遺物

報 告 書 抄 録

ふ り が な	れいわがんねんいんざいしないいせきはっくつちょうさほうこくしょ
書 名	令和元年度印西市内遺跡発掘調査報告書
副 書 名	
巻 次	
シ リ ー ズ 名	
シ リ ー ズ 番 号	
編 著 者 名	小倉和重
編 集 機 関	公益財団法人印旛郡市文化財センター
所 在 地	〒285-0814　千葉県佐倉市春路１丁目１番地４
発 行 年 月 日	西暦2021年２月26日

ふりがな	ふりがな	コード		経緯度（世界測地系）		調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経			
きどばいせき（だい５ちてん） 水戸場遺跡（第５地点）	いんざいしふなおあざへいぞうち409-1、409-3 印西市船尾字平蔵地409-1、409-3	122122	09-147	35°47′8″	140°07′44″	2019年12月６日	確認調査 上層58.5㎡/499.95㎡	個人住宅兼店舗建設
たたらだいせき（だい３ちてん） 多々羅田遺跡（第３地点）	いんざいしたたらだ74-2 印西市多々羅田74-2	122122	09-148	35°47′41″	140°07′47″	2019年12月９日	確認調査 上層89㎡/732.21㎡	個人住宅建築
あらくやまいせき（だい２ちてん） アラク山遺跡（第２地点）	いんざいしかくろあざあらく468-1 印西市鹿黒字アラク468-1	122122	09-149	35°49′17″	140°08′04″	2020年２月26日	確認調査 上層238㎡/86.8㎡	携帯電話基地局建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
水戸場遺跡（第５地点）	集落跡	縄文・古墳・奈良時代	奈良・平安時代竪穴住居跡１軒	土師器・須恵器（時期不明）	なし
多々羅田遺跡（第３地点）	生産遺跡	奈良・平安時代、中世	中世畝状遺構２条、中世土坑１基	土師器（時期不明）	なし
アラク山遺跡（第２地点）	包蔵地	縄文・奈良・平安時代	古墳時代竪穴住居跡１軒	縄文土器（後期）、古墳時代土師器	古墳時代初頭の遺物が出土した。

令和元年度

印西市内遺跡発掘調査報告書

令和３年２月19日　印刷
令和３年２月26日　発行

編　集　公益財団法人印旛郡市文化財センター
千葉県佐倉市春路１丁目１番地４
発　行　印西市教育委員会
千葉県印西市大森２３６４番２
印　刷　株式会社 弘　文　社
千葉県市川市市川南２丁目７番地２